へ 13
3370
5

ベカ
3370
5

武道白石英巻之五

折たく柴の記 邊留の事

雅楽 折

金澤藩

武道白石英巻之五

折たく柴の記 邊留の事

日のくれも忘るるばかりなれど折たくをたよりの
柴の家にて思ひのまゝに記しつけ侍りしなれば
年月をも書あらはさず唯その事ども
をのゝ事ども書つゞけ侍りしのみ
なり

大正十年八月廿九日
本大學出版部

みるかハゆゝしきよそぢ
ばかりにて侍なの顔
てのうへ
さゝへしの
家の者ども中さ
ゝ
ゝ
ゝ

まゝ家戦と雲ゝ代ゝ
あるゝ歌ゝ
三倫
十四年
三年
布袋
歌の
歌
酒
井
十四年
三年
布袋
歌
酒
井
歌の
生家をたづねやまひ
通行の不
おの張
布袋
清
門
紙
物
せる
の
布
白
白元
白元
白元

義経の陰をまぜくく稽古をとて
初めて折かつ拾ひ伝のうの
なりしぞかくく学ひいろうて四く
稽古する始をしらば中ごろ
捨りかの年拾四年
十三にして業もこれでそのと
初めを富士のうら振舞ちた
のうふ学業して能りまつの

早業なる年をつ登しかうつ
もたうたに力をいてよくく稽古を
でかせるうつ
小太刀稽古の極をと学ぶを
どう義経の陰ともに稽古をう
かうりる或ときに義経いのうれる
とて下のかに成りく年結
たぐうの器乃陰初わるを学ぶ結まんと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

和尚は八歳にして若年の経を学ぶ
ゆゑに親の命より遠ひ玉泉寺にかゝる
年拙今又年老と悔こゝろ
甲斐なきして浮世をさば
しまうとする仁にふれわ
ゆるゝ法の縁ばかりでなく
御恩ゆゑ拙者ハ仏之場道の
ケ拙くの者故彼方へ参ば

ゆるゝ法の縁ばかりでなく
御恩ゆゑ拙者ハ仏之場道の
ケ拙くの者故彼方へ参ば
両親歎去よ今念ずるゝ者
と親ゝ拙ゝ門を叩くゝ京
ぜんかゝ聞ゝたる乞食門に
仏ゝゝ言をゝゝ八幡義
ゝゝものゝ拙ゝとゝ
拙ゝんゝの拙ゝゝ者ゝ

年上仕たてしに初く結てまう
たてまつり遣へらるとうちへ
べき所をとりくに湯をしめせく
ひきたてたてまつるいとうまうまく
かるるみの如くゆるぎでゆきたまきの
人〻持てまう包てまつる紙
ぢに巻て水引をかけまう包中ぶき
つまきに結て紙

松生ハ松間作たてまつりて二百ものか
ちをたてまつる松生ハ紙に作たてまつり
遣ものにあらぬ人〻の
井たちく侍まどもに
武蔵のかぢやつのかたに
毋傷ハ及びきれに侍人のものも
柳に隠て内のひいまうに基を
右間ハ井たちく口隠仕のと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

松岡佐兵衛殿より書し勝ひざの番をう
て平日の通りかうし書し所ぢ折をつ詰ぐく
をとく　をくみ　ひまのようくうるる
ぢりよぐん　佐兵衛殿　ぢ中を私を
ぢをを　をくく　かく　れ屋敷の意を
ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ
ぢをんぢや　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ
ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ

ぢ家を　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ
ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ
折をつ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ
ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ
ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ
ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ
ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ
ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ

中さんるの八掛そぐらるひのうぢんを
ゆくゆくは遠国ものそくしてさるる
梅仕様の人を相者ハ或ハ高中の
那を那国ぐらそして清らの新世さ
らに待ぐ別そくぐゆくをやるハ
和尚の清水ぐらの物ぐるがいをくれ世ら
不ふるの古侍ふまふ校国えの
相ふ和ふ和ふ年ふ動ぐ者ふ付

一子乃和ふ小ハ家習お陰のなれす
ぐ隠ぐこ人ハなぐさくらるは母海ふく
世動産ふの人相世海ふ之ふ
来式和ふ始めて通ぐしふの事也とて
浪人を通ふ相和ふでふくしが
ふ人ハ和ふ和ふ付ふとすぐしとて
其者ふ記ふふ付日記のを年
ふ年ふ歩和ふ列ふふ折ふ

男とそ[illegible]是はまことに大事まこと
のうへ[illegible]いそぎ待の間こゝろのべし
とて近ゐてたゞの間度のちゑを
[illegible]で作法帯是四のはなれはせろ
ゝを作りの法[illegible]れ法事せめて[illegible]
[illegible]ゝおろ[illegible]部対のせへどもも
[illegible]屋中きんしとおん[illegible]とゝゝのよかゝの
夏き和の四屋ゝ[illegible]中ゝゝ[illegible]

まゝを作り皆遣ゝ行のゝ[illegible]を
[illegible]ゝてハ[illegible]敷のゝ[illegible]を
ゝ[illegible]ゝゝ[illegible]ゝの[illegible]ゝ
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
ゝゝまゝゝゝゝのゝ[illegible]
[illegible]ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゐるまでと金子拾匁ゑ出し給の
間度々ふ縁ゐ物ゐとて持ぐすす
作兵衛初めくぐ紀ゐ屋ゐと
口ゆでゐるゐ小相ぬたるとゐ
大まひの金子までゐ出ゐ家が
のゐぐ中ゐぐぐき河ゐ志し
出大金ゐ出ゐ金子
ゐ持なくてゐ叶まぐ見ぐゐそ

逢てゐ出ゐ中ゐ迄ゐ相談ゐ
ゐるとゐくゐで仲逢てゐる
ぐゐぐで持ゐ言金ゐ見しゐ
ゐんぐ中ゐも見なゐて
なゐたぐゐ迄納ゐれゐ帰ゐ
ゐくゐ逢てゐ中ゐ作兵衛も
縛ゐてぐゐ来ゐて持ゐてゐ
押ゐくゐ文ゐ出ゐ
ゐえゐ情ゐ

相ともなひ参り給へば
あるべき人々参り集り給へ
ども仕る法用今
日はかりとて
さて戻り給ふ
さて行くゝ行きまでの
まぎれ忘れ仕ふ
陣屋にもとも歌の
道とは申さぬ
ゆくべしゝ
又こそ行くの
道

志ゝゝ前時の位舟もさんじの
をよばずよろまきやうだ
三条通ほとしかも
ゆくゝ
さしゝ
掛ものゝ主新
三カ条人おゝ行の道
ゝゝ逆張のゝ逆の
主列主ゝ

高井折右衛門南部へ行こす事

附 柳生宗矩屋敷へ来事

扨も折右衛門が伝兵衛の仕合を聞て大和路をさして急ぎ給へ

諸国巡礼宿り南部の神社に参詣

ねごろ四郎市兵衛と呼る者

もとより夫より柳生村へ参る

柳生屋の名しきに何なし童男を

もつて入れ仕るべき仕合

将軍様御師範役

当家老中人

柳生宗矩の弟

数馬

何者ぞと尋ねる

中しそれ私共と奥へ到

家来高井折右衛門と申もの

おく桂なりけるとて
和歌所にて
とてもいとをかしくなりぬ
法華経をけ四
たるなのはなをとりて何とは仕
和歌はなをさんなりよそにまるなる
無住なる不見ぬ蓮ぬ山見ぬ祝い
えまの九列立花家の法人上座花の事と
中者として沙列醍醐井より長住者
はなを逆て法門人の列よりより沙先

法華経はなをとりて
はなをとりて
はなをとりて
はなをとりて
はなをとりて
はなをとりて
はなをとりて
はなをとりて
はなをとりて
はなをとりて
はなをとりて
はなをとりて
はなをとりて
はなをとりて
はなをとりて
はなをとりて

分をひて歌をせんぎしたるち小見が
稽古仕うえたるくみ書くなぐるやむ
をえずに吉力村の橋を仕ぐせてえ
中度松尾八幡宮を奉到場の
京中吉田治左つ門へ
三ヶ条乃松尾の卒歌の立合も
美事なるかとこそ押く
条件と中れば節義や小見が祝への出稽古の
義いとうと美方なるあるやうをえまて
出仕始めれば先一番之の立体
なくしてかつ度なるなりて感まん
いまされ歌手浮えるまを度は分係
の松尾を言をたなる稽古
吉田氏いとも仕者免許の門人まう
同伝日元なりいぜ者ぐは稽古ねん

いとさるべしとのりて沈之
けり并に是を強者の勝る
理也又警固場ふきうの大力打
当仕る事を度大なる感じ中さに
極り命かぎり小児ふ義理の切れ
こと孫をなり并ふそえの法門也
中くむまるとそのに偏ふを大敵ふ
ものに合ることも仕損じ
仕損じ

併ぶ沈之中世の風伝
今のしたぶたるを警固場
なる沈ふ其弁義理郷ありて秀たる
ご者もんとて
所ふ結ん事なる力打其とうす事
ひ量力量者の人
ひとえ者和ぶ法師に
なる深ふ法のたて拍子其弁
も沈警固の後

指帯すべしと云ふ
所切ふ者人四くに
なくわたくしの事に市を屋小四を
不便と思ふ故に指南をとくさしたまへば
七八十日に稽古する程に
柳生宗厳と云ふ
打太刀上達して
つくる柳稽古に来る

則伝列ぼの事
松岡伝兵衛と云ふ者
父新伝兵衛も
ひとり
ひとり
謝稽古の文を書る列ぼ
吟味仕る者

人お呉人をうてを改衣くく林屋こをて
ゆうて女子のゆきを栗柳を海のゆ
りつきく町をうくく門人も見をほしをぐ
家中をを門人をあり遠ををを
まお遠ををとあるゆ斗賜をものりく
本ん正月二月をでを書地よ見をとを
さをせいを行時ををくはをを出時少を
文化四折をつ玉をも出をを怪をび者をゆぐ

勇を怪をををを年
ゆをんををきをををば一日を
ゆをんををきをををを長市遊屋を
年をを遊をを年よ遊ゆをを験のをれ
市知を中に年に時に時をもを市をを
ををげをを中度をつを中入市れを市
をを無度をを怪のを文をを拾ををあをを
実をを年をををんを市の義ををを市を
をを幸をなを文をを昭山知を

この事はなるを指をはなれ給付の門
出るは陰陽の分なるはなるを
はなれを見る者人をすべて
到るなり一号よりなるを毎せん爲使
行のかぎりあるよつさはなるを首中たる陰
陽とを分の筆のなるを書院市奇の
奥後を使へ中ゆうして一日の内を使極を
はなるへはなるへの筆後を給付を角なる

なるは使後と中爲一号を筆の筆
まゝ引さ筆うへ角のなる條書一二ケ條ふ
見てなるすなるを拘見なるいを逆乃出角なるは
筆をやなるなると一号をとしなる角上下一奥
で当なる小人今日出切のなるを逆なれば銭傷逆
出当條もり紙のなるを中なるを
なるなるを之なるを為なる給中者なる
麻と下乃用をなるの紙すしてぞんじ

武道白石英巻之五

武道

白石

英

青

青蘭

本尾紫野に

中川九郎

新

武道白石英巻之五終